

膵がんを早期に見つけるために

ご自身やご家族の病気や症状で以下のハイリスク因子に該当するものがあるかを確認してみましょう。もし、一つでもある場合は、かかりつけ医にご相談ください。

- 膵がんの家族歴 (兄弟姉妹・親・子供)
- 糖尿病 (初発発症・急速な悪化)
- 急性膵炎、慢性膵炎
- 膵のう胞
- 遺伝性膵炎
- 黄疸
- 腹部、背部痛
- 胆道系酵素の上昇 (ビリルビン、ALP、GTP)
- 膵酵素の上昇 (アミラーゼ、リパーゼ)
- 腫瘍マーカーの上昇 (CEA、CA19 - 9)

※膵がんは特有の症状に乏しく、症状はすい臓がんの早期発見の指標にはなりません。腹痛などの腹部症状がある場合や、糖尿病発症がみられた場合には、すい臓がんの可能性も考えて検査を行うことをお勧めします。

病院の探し方

★国立がん研究センターがん情報サービス
<https://ganjoho.jp/public/index.html>

★一般社団法人日本肝胆膵外科学会
<http://www.jshbps.jp/>

★日本膵臓学会
http://www.suizou.org/instructor/instructor_list.htm

★薬物療法専門医は、日本臨床腫瘍学会
<http://www.jsmo.or.jp/authorize/lists.html>

お問合せ先
パンキャンジャパン本部 <https://pancan.jp/>
パンキャンジャパン北海道支部 080-9329-3643

※このパンフレットは、「2018年度北海道がん対策基金」助成により作成いたしました。

膵がんを早期に見つけるために



パンキャンジャパン
北海道アフィリエイト

監修 平野 聡

北海道大学病院
消化器外科II 教授

参考資料：
患者のための膵がん診療ガイドラインの解説
日本膵臓学会 膵癌資料ガイドライン改訂委員会

膵臓がんとは

膵臓（すいぞう）がんは、その多くが膵臓内部の膵管（すいかん：膵液の流れる管）に発生します。一般に膵臓がんといえばこの膵管にできたがん（膵管がん）を指し、通常型膵がんともいいます（これ以降は「膵臓がん」を「膵がん」と記載します）。外科手術でがんを切除するのが唯一の根治（長期間再発しない治療）の手段ですが、早期発見が難しく、外科切除できる患者さんは全体の20～30%程度で、切除できてもその後に肝転移などの再発が起こりやすいという特徴があります。最近、膵がんの有効な抗がん剤治療が開発され、手術と合わせた治療や放射線と合わせた治療で効果を発揮しています。すい臓がんは全てのがんの中で最も難治のがんとして「21世紀に取り残されたがん」といわれていますが、早期に発見することができれば、手術や抗がん剤治療が有効に働くため、根治が望めます。

膵がんの主な2つの異なる働き

①外分泌機能は「消化液を分泌する」働きで、アミラーゼなどの消化酵素をつくります。膵臓には腺房細胞と呼ばれる多数の細胞があり、消化液である「膵液（すいえき）」を産生します。膵液の中にはアミラーゼをはじめ多くの消化酵素が含まれており、食物と混じり合って消化を促します。

②内分泌機能は「ホルモンを分泌する」働きで、インスリンとグルカゴンという2種類のホルモンを作ります。これらのホルモンは膵臓の中にあるランゲルハンス島細胞でつくられ、血液の流れによって全身に運ばれます。グルカゴンは血糖値を上げ、インシュリンは低下させる働きがあり、この2つのホルモンがバランス良く血糖値を正常に保つ役割を担っています。

膵がんのさまざまなリスク因子

リスク① 糖尿病患者

膵がんになるリスクは、糖尿病のない方と比べて約2倍高く、糖尿病は膵がん発生の重要なサインです。初めて糖尿病と診断された場合や、糖尿病が急に悪化した場合は膵がんが潜んでいる可能性があります。

リスク② 若年性肥満

肥満は膵がんのリスクを高め、特に若いときに太った場合には膵がんリスクが増加します。

リスク③ 慢性膵炎

慢性膵炎の患者さんに膵がんが発生する頻度は約4%で、一般の方に比べ13倍高率です。特に慢性膵炎の診断から2年以内は膵がんが発見される頻度が高いと言われています。

リスク④ 家族性膵癌

がん患者さんの3～9%には、家族にも膵がんの方がいます。家族にひとり膵がんの方がいる場合、膵がんになるリスクは3倍以上といわれています。特に、親子・兄弟姉妹に2人以上膵がんの方がいる場合は「家族性膵がん」と定義され、3人いると6倍、3人いると32倍のリスクとなります。家族に膵がんの罹患者が多いほど膵がんになるリスクは高くなります。

リスク⑤ 遺伝性膵がん症候群

親子・兄弟姉妹の膵がんのほかに、膵がんになりやすい遺伝的な病気として遺伝性膵がん症候群があります。遺伝性膵がん症候群には、遺伝性膵炎、家族性大腸腺腫ポリポーシス、遺伝性非ポリポーシス大腸がん（リンチ症候群）、ポイツ・ジェガース症候群、家族性異型多発母斑黒色腫症候群、遺伝性乳がん卵巣がん症候群があります。

リスク⑥ 遺伝性膵炎

「1つの家系に2世代以上にわたり2人以上の膵炎患者」がいて、若年者に発症する胆石やアルコールの関与がない「膵炎」と定義されます。膵がんのリスクは一般の人より約60～87倍高率です。

リスク⑦ 膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）

IPMNとは、膵管の中に粘液が溜まって膵管が拡張したりう胞（袋状のもの）ができる病気で、膵がんができやすいことがわかっています。IPMNと診断された方は定期的に検査を行い、変化の有無を観察する必要があります。

※ご家族の病気、ご自分の病気や状態でここに挙げた**リスク因子**に該当するものがある場合には、検診や人間ドックなどを受けることが**膵がんの早期発見への第一歩**です。特に複数の項目が該当する場合には十分な注意が必要です。医療機関に相談しましょう。ご自分でできる膵がんの予防として、肥満にならない、禁煙、大量飲酒を避けるなど、生活習慣を整えることが大切です。

すい臓がんのリスク因子をチェックして早期発見!